

# 国立女子大の使命は高度な教育による女性リーダーの育成

お茶の水女子大学長 羽入 佐和子氏

## 東京女子師範学校として明治八年に開校

本誌 お茶の水女子大学の前身は、東京・御茶ノ水（文京区湯島）に設置された東京女子師範学校です。

羽入 本学は明治八年（一八七五年）に東京女子師範学校として開校その後、東京師範学校女子部、高等師範学校女子部、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校を経て、一九四九年に新制大学・お茶の水女子大学となり、さらに二〇〇四年の国立大学の法人化に伴い、現在は国立大学法人お茶の水女子大学となっています。

教員養成機関としてスタート、全国に優秀な教員を送り出してきましたが、その過程で日本初の女性理学博士や農学博士、日本の女性として初めて国際的に活躍した研究者や女子大学など教育機関の創設者など高度な専門性を備え、社会で活躍する多くの女性職業人を輩出しました。さらに、近年では教育や研究に限らず、公務員などの公的機関、企業、メディアなどのさまざまな領域で本学の卒業生が活躍しています。

本誌 卒業生の就業率は非常に高

いですね。

羽入 一〇年前の調査では、日本女性全体の平均就業率は約七割ですが、本学卒業生の就業率は約七割で、フルタイムで仕事をしている人の割合は就業者の六割にのぼっています。また、四〇歳前後の就業率は共学出身者の場合、六割程度という報告もあります。本学は七割にも達しています。さらに生涯を通して仕事を続けている人も多く、六〇歳前後で約五割が継続して就業しており、全国平均に比べ、非常に高くなっています。本学では就業力育成プログラムにより常に社会の動きを意識した教育を行い、社会の動きに敏感な女性の育成を図っています。

本誌 リーダーシップ教育に力を入れ、女性リーダー育成プログラムを展開しています。

羽入 女性の大学進学率は現在五割以上にのぼっていますが、女性管理職の割合は低く、企業や官庁、各種団体などで意思決定過程に関与している女性は一割にも満たない状況です。女性リーダー育成プログラムでは多様な状況に対応できる資質の養成を図り、社会を牽引し得る女性の育成を目指しています。本学には

高度な教育による女性リーダー育成の歴史があり、これまでの育成実績をもとに、同プログラムの効果的な実施により専門的な知識を基盤に人間として高い見識をもった学生の育成を進めています。このほか、キャリアデザインプログラムで現代社会の諸課題を解決する新たなリーダー育成を目標にコンピテンシー（知識や技能を組み合わせて成果を生む包括的能力）の開発にも取り組んでいます。

本誌 専門課程教育では複数プログラム選択履修制度を実施していますね。

羽入 複数プログラム選択履修制度は専門基礎力の育成を目的とした新しい専門課程教育プログラムで、本学独自の教育プログラムとして二〇一一年度から導入しています。従来の学科・コースの専門性の枠内で閉鎖的に専門教育を行うのではなく、主プログラム（専攻）と選択プログラム（自由選択、複数選択可）の組み合わせにより、学部学科などを横断して広く学ぶことができるものです。また、四年前から行っている「二世紀型文理融合リベラルアーツ教育」も本学独自の教育プログラムで



**羽入佐和子（はにゆう・さわこ）氏**  
 1948年生まれ。1980年 お茶の水女子大学大学院博士課程単位取得退学。1982年 同学術博士。1984年 お茶の水女子大学文教育学部講師。1990年 助教授、大学院人間文化研究科担当。1996年 教授。2005年 副学長・附属図書館長。2009年 お茶の水女子大学長に就任。国家公務員倫理審査会委員、文部科学省科学技術・学術審議会専門委員、日本学術会議連携会員、日本ヤスパース協会理事長。

す。これは問題を発見し、それを幅広い視野を持って専門的な知識と組み合わせ、他者の助けも借り、問題解決の手段を探っていく能力を身につけるものです。

## コミュニケーション力強化へ新学生寮を開設

**本誌** 二〇一二年四月に新学生寮を開設しましたが、

**羽入** 多様な社会集団の中でコミュニケーション力の強化を図り、協働する力を身につけて欲しいと思い、共有スペースを広くとったルームシェア型の学生寮を建設しました。二

〇〇七年に「共に学び、共に成長すること」をコンセプトに全学生・教職員が利用可能なPC端末を備えたラーニング・コモンズを本学の附属図書館に設置しましたが、新学生寮のコンセプトにはさらに「共に住むこと」を加え、「共に住まい、共に学び、共に成長する」を理念にアドバイザーを置いて運営しています。

現在の入寮生は一、二年生ですが、全寮制が理想だと思っています。

**本誌** 現在の校舎は関東大震災の九年後に建てられたものですね。

**羽入** 本学の名前の由来となった御茶ノ水にあった校舎は関東大震災

で焼失、現在の文京区大塚の地に移転。一九三二年に現在の大学本館を建設しました。そのため、耐震に配慮されており、東日本大震災の当日には帰宅困難になった学生や教職員などが講堂に集まり夜を明かしました。

また、東日本大震災支援としては震災直後に大学に備蓄していた物の一部を被災地に送り、その後、被災した学生を支援する取り組みも開始しました。このほか、学内公募による災害対策や復興に関わる研究プロジェクトを発足させ、災害時基準の研究なども開始したいと考えています。

今後も長期的な支援を続けるとともに、高度な研究に裏付けられた教育を行い、社会を発展へと導く女性リーダーの育成という本学の務めを果たしていきたいと思っています。

**本誌** 二〇〇四年の国立大学法人化時に教職共同体を導入しましたが、

**羽入** 国立大学法人化以来、教員と事務職員が一つの組織体をつくり、大学の運営を行っています。また、女性を育てる大学には女性が学びやすく、研究しやすく、働きやすい環境が必要不可欠ですので、企業などでも採用できる理想的なモデルをつくりあげたいと思っています。本学では国立大学の法人化にあたって「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」ことを理念として掲げました。女性の活躍が目覚ましいといわれる現代ですが、前述のように意思決定過程に参画している女性は少なく、リーダーシップを発揮する女性の育成が重要な課題になっています。この課題解決のために具体的な方策を提案することが国立の女子大学にとって大きな使命と考えています。